



特装車両事業の技術展望

上 條 崇 史

1 はじめに

特装車両事業では、ミキサ車を主力製品とし、剪定枝粉碎処理車等の環境製品を加え、生産・販売をしている。今後の特装車両事業の外部環境変化は大きく、トラックのEV化への対応やミキサ車に続く第2の柱となる製品の創出が求められている。

本報では、特装車両事業の技術の展望を述べる。

2 外部環境変化への対応

特装業界全体に影響がある外部環境の変化として、輸送時の二酸化炭素排出量削減を目的としたトラックのEV化があげられる。各トラックメーカーのEV化は小型車から計画され大型車へ移行していく。このEVトラックに対応したミキサ車を開発し市場投入することが社会的責任と考えている。トラックメーカーと強調しながらも、ミキサ部の駆動方式を提案していくことで、よりエネルギー効率が高いミキサ車を作り上げていく。

3 新製品の成長と開発

特装車両事業では、新たにキャンピングカーの受注を開始した(図1)。「冒険心をくすぐり、運転の楽しさが味わえるキャンピングカー」をコンセプトに足回り技術、架装技術を活かし、高速道路や山道、街

乗りでも楽しく運転できる車両とした。居住空間は、旅先に別荘を運ぶような贅沢かつ上質な空間をデザインした。キャンピングカーは進み始めたばかりであるが、この製品を軌道に乗せることが重要である。そのためには変化が激しい市場要求に対応しつつ、特装車両事業の架装技術・内装技術に加え、振動制御技術や油圧技術といった他事業が保有している技術も融合することで常に新しい形のキャンピングカーを開発し続け、ラインナップを拡充していく必要がある。



図1 キャンピングカー「VILLATOR」

4 おわりに

特装車両事業は、「カヤバ」を知っていただくことができる完成製品を持っている。前述にて技術の展望を述べてきたが、これらの技術を取り入れた製品を開発し市場投入することで、お客様に喜びや楽しさを感じていただくとともに、カヤバのブランド力も高められるように特装車両事業として活動していきたい。

著 者



上 條 崇 史

1995年入社。特装車両事業部
技術部長。特装車両製品の設計、
開発に従事。